



第72回 卒業式

本日、平成31年度仙台市立仙台高等学校卒業式が挙行されました。ご来賓の方々や保護者の皆様の御参加が叶わない式典となりましたが、伝統ある仙高の卒業式は厳粛で心温まる素晴らしい式典となりました。卒業式で予定されていたPTA会長鎌田様からのご祝辞、在校生代表生徒会長安藤まなさんからの送辞、卒業生代表西田匡秀さんの答辞、そして本校校長からの式辞をご紹介します。

本日は、おめでとうございます

祝辞

皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんが、勉強や運動、学校行事や部活動などに、力を合わせて一生懸命に取り組む姿を見ながら、その成長を頼もしく思っていました。

今日の佳き日を迎えるにあたり、仙台高校での3年間は思い出されることと思います。

先生も一緒に喜び合ったこと、みんなで楽しかったこと、悔しかったことや助け合ったこと、さまざまな経験をしてきたことと思います。

仙台高校での経験を生かし、これからも、心と身体を鍛え、さらに大きく成長し、強くて優しい大人になってほしいと思います。

保護者の皆さんは、どんな時も、卒業生の皆さんのことを思い、毎日の食事や健康など、何かと気づかい、大切に育ててくれました。そのことに、心から感謝をしてください。そして、何よりも、自分を大切にして、幸せになってください。

先生方には、生きていく上で、多くのことを教えていただきました。先生からの教えを大切にして、これからは、一人一人が責任をもって、自分の道を歩いてください。皆さんが、笑顔で、幸せに生きていってくれることが、私たち大人の心からの願いです。

校長先生をはじめ、教職員の皆様、先生方のおかげで、生徒たちは、多くのことを学び、身につけることができました。今日の日まで、生徒たちのことをあたたかくご指導くださり、ありがとうございました。

卒業生の皆さん、これからは、どのように生きていくべきかを、自分でよく考えて、前を向いて進んでいってください。



何事も一生懸命に、地道に取り組めば、明るい未来が広がります。

皆さんが、何か少しでも、世の中のためになること、まわりの人のためになることを考え、行動してくれることが、わたしたち大人が皆さんに望むことです。

保護者の皆さんや先生方、友人たち、まわりの皆さんのおかげで、今日の佳き日を迎えられることに感謝し、伝統ある仙台高校で学んだことを誇りに、自信をもって、大きく羽ばたいてください。

皆さんのこれからのご活躍に期待し、お幸せを祈って、お祝いの言葉といたします。

令和2年 3月1日 仙台市立 仙台高等学校 父母教師会 会長 鎌田美千子

在校生代表の言葉

肌寒さがまだ残りつつも、桜の花の蕾は、もうほころびを見せています。今日この良き日に、仙台市立仙台高等学校を卒業される三年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。私たち在校生一同、心からお慶び申し上げます。

仙台高校の三年間は、長い人生の中でほんの一瞬の出来事だったかもしれません。ですが、そのほんの一瞬の出来事の中にも多くの人との出会いや思い出を築き上げてきたことと思います。

思い起こせば、先輩方は常に私たちの前を歩き、手を差し伸べてくださいました。部活動では、毎日声を出し、汗を流し、試行錯誤を繰り返しながら仲間とともに練習に励んでいた先輩方の姿。そんな日々の部活動では、私たちに勇気や悔しさ、誇りを教えてくださいました。インターハイや全国大会出場をはじめとする輝かしい功績は、日々の努力が実を結んだ結果なのだと思います。

体育祭では、各クラスで個性あふれるTシャツを作成し、団結して勝利をつかもうとする姿、迫力あるプレーの数々に、目が離せませんでした。また、縦割り競技では学年の垣根を越えて全力でリードしてくださる先輩方から背中を押ししてもらいました。仙高祭は、令和初であることをテーマに、夜遅くまで学校に残り念入りに準備されていた先輩方の姿から、仙高祭を最高のものにしたいという熱い思いが伝わってきました。個性あふれる模擬店やステージ企画など、校内だけでなく一般公開でも大いに盛り上がりました。

そんな先輩方と過ごした楽しい日々はあっという間に過ぎていき、今別れの時がやってきてしまいました。これからこの仙台高校で先輩方の明るい笑い声や、部活動に勉強にいそしむ姿も見られなくなると思うと、寂しさと悲しさがこみ上げてきます。ですがその面影は、私たちの心に深く永く残ることでしょう。これからどんな困難が待ち受けていたとしても、先輩方なら、顔を上げ、前を向き、一步一步力強く歩んでいけるに違いありません。仙台高校で培ってきたその力で、いつまでも輝き続けてください。



令和二年、仙台高校は創立八十周年を迎える節目の年になります。私たち在校生一同、先輩方から引き継いだ自主自立の精神を胸に、新しい仙台高校を築いていきます。最後に、これからの先輩方のますますのご健康とご活躍を祈念し、在校生代表の言葉とさせていただきます。

令和 二年 三月 一日 在校生代表 生徒会長 安藤 まな

卒業生代表の言葉

少し遅れてやってきた冬の寒さも少しずつ和らぎ、ようやく春の訪れを感じられる季節になりました。本日は私たちのためにこのような盛大な式を挙げていただき、また校長先生をはじめ、来賓の皆様方、在校生代表の方からたくさんの励ましの言葉を頂戴いたしましたことを卒業生一同心より感謝申し上げます。ついに私たち二六一名は仙台高校を卒業します。



思えば三年前、期待と不安を胸に抱きながら仙台高校に入学しました。私たちは今までと違う環境に戸惑い、元々知っている人とだけ会話をしたり、生徒手帳の地図を見ながら校舎内を移動したりしていたことが懐かしく思い出されます。しかし、オリエンテーションや遠足といった行事を通して、新たな友人を作り、友達の輪を広げることができました。

二年生になる頃には学校生活にも慣れ始め、楽しみにしていた研修旅行が始まりました。各クラスでそれぞれに行き先、移動手段、到着してからの流れなどを細かく計画していく中で、仲間との絆を深めることができました。旅行先ではその地域の歴史や文化に触れることができ、夜には友達と語り合い、多くのことを学ぶことができました。生徒主体で作上げた世界で一つだけの研修旅行は一生の大切な思い出です。

いよいよ最高学年となった三年生、全ての行事に最後という言葉が付き、寂しさを覚えました。部活動や行事において主体となって動くようになり、楽しみであると同時にプレッシャーも感じるようになりました。そのプレッシャーと戦いながら、よりよい仙台高校にするために努力してきました。

部活動では悔いの残らないよう日々の練習に取り組み、全力を尽くしてきました。

体育祭では、あいにくの雨でしたが、それに負けることなく皆全力で取り組んでいました。学年一丸となり優勝しようとする思いは強く、応援にも熱が入りました。みんなで作ったクラスTシャツを着ることでやる気が一層上がり、学年を通して一体感が生まれました。

仙高祭では各クラスで出店内容を話し合い、コンセプトを決め、夜遅くまで準備をしました。どのクラスも盛り上がり、残り少ない行事を楽しもうとする雰囲気を感じることができました。ステージ発表では普段見ることのできない友達の姿に心が躍りました。

このように三年間を振り返ると、あっという間に過ぎ去ったように感じます。しかし、

確実に成長することができた三年間でした。常に高みを目指して目標を設定し、時には休みながら全力を尽くしてきた三年間でした。この三年間が充実したものになったのは、いつも周りで笑っていた友達のおかげです。悩んでいる時には相談に乗ったり話を聞いてもらったり、互いに支え合ってきました。時には対立して喧嘩もしましたが、それでも仲直りしてまた今までみたいに話してくれる優しい人ばかりでした。そんな友達との毎日がとても楽しかったです。ありがとうございます。そして先生方、進路指導はもちろんのこと、相談がある時には親身になって乗ってくださり、時には厳しく私たちに本気で向き合って指導していただき、ありがとうございました。

そして、どんな時にも味方でいてくれて安心して帰れる場所をつくってくれたのが家族でした。時には喧嘩もしましたが、いつも優しく接してくれました。十八年間いつも傍らで見守ってくれてありがとうございました。これからも迷惑をかけるかもしれませんが、見守っていて下さい。

さて、共に過ごした仲間との別れの時が近付いてきました。寂しいですが、この次には新しい出会いがあります。悲しい別れではありません。未来への希望のある別れです。私たちには「自主自立」で培ってきた力があります。どの道へ進んでも走り続ける力があります。ですがその道は決して平坦ではないでしょう。困難が待ち受けているでしょう。そんな時にはこの三年間で培ってきたことを糧に乗り越えてみせます。しかし、必ずしも努力しなければいけないわけではありません。困ったことがあれば友を頼り助け合う。この三年間の絆はそのためのものです。これからも私たちは支え合いながら止まることなく前へ進んで挑戦し続けます。

最後になりましたが、仙台高校の更なる発展を心よりお祈り申し上げ、卒業生代表の言葉とさせていただきます。

令和二年 三月一日 第七十二回 卒業生代表 西田 匡秀

平成三十一年度卒業式 式辞

例年になく暖かな冬が終わろうとする令和二年三月。最近になって、忘れものを取りに戻ったような寒い日が続きました。肌寒さは、卒業生諸君が仙台高校との別れを惜しんでいたからでしょうか。希望の船出となる今朝、暖かな日射しとともに、西の空に祝福の虹がかかっていました。

新型コロナウイルスの影響で、日本中が感染防止に取り組むことになり、日夜、力を尽くして立ち向かっている多くの方々に、深い敬意と感謝を感じます。本日、規模を縮小しながらも卒業式を迎えられますことは、多くの皆さまのお力添えなくしてはできないことでした。ご来賓の皆さま、保護者の皆さま、在校生の臨席はかないませんでしたが、今までに賜りました多くのお力添えに、心より御礼を申し上げます。

お子さまの晴れの門出を、共にこの会場で迎えられなかった保護者の皆さまのお気持ちを察すると、胸の痛い思いがいたします。残念な思いを抱きながらも、現状を鑑み、今朝、お子さまを送り出した保護者の皆さまのお気持ちに、深い愛情と大きなエールを感じます。保護者の皆さまには、お子さまの高校卒業に心よりお祝いを申し上げ

げますとともに、これまでの学校への大きなご支援に御礼を申し上げます。

さて、本日の主役である卒業生の皆さま。私たち教職員一同、皆さんの頑張りを心から讃えます。そして、ひとりひとりが自慢できる人間として成長したことを、本当に嬉しく思います。卒業生諸君。ご卒業おめでとうございます。

今回のコロナウイルスの影響で感じたことは、私たちは否応なく世界とつながっているという実感です。この世には関係のないことなどひとつもない。ひとりひとりが世界を思い、手を携えることだけが、窮地を救う唯一の方法なのだ。ピンチを救うのはどこかの誰かではなく、まぎれもない私たちひとりひとりなのだ、と。今日、卒業を迎える仙台高校 72 回生諸君は、将来にあっても、人を思い、つながり、励ますことができる青年です。それは、諸君のこの仙台高校で、思い切り泣いたり笑ったりした日々が育てた財産です。君たちは美しい。どうぞ、自信を持って進んでください。これからもずっと応援しています。

高校時代は、勉強や部活動、友人との語らいなどの中、日々が充実し、輝いていたのは、紛れもない事実で、生涯の宝物です。しかし一方では、「何者かになろう」と思い、その「何者か」がわからないまま、ただただ焦りあがき、自分に落胆することもあったかと思えます。見えない自分の未来を不安に思い、自分の非力さを隠し恥じる気持ちも、誰もが経験する青春のひとつでもあります。

高校三年の頃、ある級友が『星の王子さま』を熱い想いで紹介してくれました。当時、歴史小説の英雄たちに憧れていた私は、男子がファンタジーを薦めることに驚きながらも、こっそりと図書館から借り、隠れて読みました。そしてその中にある言葉が、神話のような、詩のような、励ましに満ちた寓話的な不思議さに溢れていることに驚きました。これらの言葉に多くの人々が魅了され、人生において何度か読み返し続けられていることが、世界の名作として語り継がれる所以であるのでしょうか。

フランスの作家で飛行士でもあるサンテクジュペリが第二次大戦中の 1940 年に亡命先のアメリカで出版したこの作品。小惑星に住む「王子さま」がきれいなバラとの仲がこじれたのをきっかけに旅立ち、星から星を巡り地球にたどり着き、語り手の「ぼく」に旅の様子と、そのきっかけについて語るというストーリーです。

「砂漠が美しいのはどこかに井戸を隠しているから」という台詞や、「ものは心で見える。大事なことは目には見えない。」という有名な言葉は、確かにこの物語のクライマックスであるけれど、それだけではない。わがままな美しいバラとの関係がこじれて旅に出た王子さまが、遠く星を離れてからバラの大切さにやっと気づくこと。この切なさこそ、私たちの日常にリンクする物語の核心なのです。誰でもなかった人が、いつか掛け替えのない「ひとり」になってゆくこと。「はじめは 10 万匹のキツネたちのどれとも違わないただのキツネだった。でも、僕たちはともだちになったし、今では世界でただ一匹のキツネだ」という王子さまの台詞は、当時の私を大きく励ましました。思うことで思われる。この「思い」のスパイラルこそが、世界を良くしてゆく方法なのだと感じます。

私たち教師も卒業式を迎えると、皆さんとの毎日に心を悩ませた分だけ、皆さんが大事なものになっていたことに改めて気づかされます。共に過ごした時間がかけがえのない時間になっていた。感謝に気づき、自分が美しくなる大切な時です。職員を代

表して、諸君との出会いに御礼を申し上げます。仙台高校に来てくれてありがとう。先生方は君たちひとりひとりを自慢に思っています。そして、鶴 順二学年主任先生を始めとする三年生の先生方、授業、部活動など、諸君と関わったすべての仙台高校職員の想いにも、深い敬意と自信を感じています。ありがとうございました。

誰にも言えない思いを、アンコールワットの遺跡の小さな壁の穴にそっとささやく。そんな映画のワンシーンがありました。多くの遺跡がそうであるように、この学び舎は君たちのこの 10 代の心の声をそっと聞き、誰にも漏らさずに封印している神殿のような存在です。この学び舎が、将来、君たちに訪れる多くの困難に対して、励まさないことは決してない。諸君が過ごした日々は、必ず将来の諸君を応援し続けます。

思うことで思われる。そんな経験を、諸君はこれからもきっと体験し続け、ますます美しい人になってゆくのでしょうか。卒業生諸君の人生が、ますます鮮やかな色彩を放つことを心から願い、式辞といたします。



令和二年三月一日

仙台市立仙台高等学校長 町田尚彦



3 学年主任から (学年便りから抜粋)

「行動の三要素」を知っていますか？それは、暇（時間）・金・熱意（意欲）です。これらは独立したものではありません。時間はお金で買うことができるし、時間をかければ金は稼げます。また、熱意があれば、時間もお金も作れます。しかし、時間やお金をかけても、熱意が高まることは保証されません。だから熱意が決定的に重要です。学生時代は、自由にできる時間がかなりありますし、その時間を使えばお金も稼げます。若いので体力もありますから、やりたいことをするには最適です。問題意識と意欲を持って前進して下さい。

鶴 順二